

おとなの
マナー
完璧講座

電車とバスと
徒歩で行く
奥の細道紀行

日経おとなの

OFF

September
2009
No.98
680yen

9

人生が
変わる
100冊

一目置かれる
作法と
振る舞い

おとなのマナー
完璧講座

手みやげを渡す、料理を食べる、メールを書く、
旅館・ホテル、レストラン、ホームパーティ、祝いの席で…

人生が
変わる
100冊

村上春樹、フィッツジェラルド、
太宰治、本のセラピー、
泣ける本、笑える本…

毎月1回白泉社発行 毎月980円(税込) 2009年9月1日発行

一目置かれる作法と振る舞い

おとなのマナー 完璧講座

Perfect Methods of Acquiring

Manners

相乗りのタクシーで、上司夫妻を
どこに座らせるか？

気になる女性の前で、鮎の塩焼きをどう食べるか？

必要なのは、机の上の教義より、
リアルタイムで使えるマナー。

本特集では、旅館やホテル、レストラン、ホームパーティ、
冠婚葬祭などさまざまなシーンで“使えるマナー”を集め、
分かりやすく解説した。

さりげない振る舞いや装いにも、
知識に裏付けられた自信と矜持きょうじが感じられる。
そんな“カッコいいおとな”を目指したい。

文 / 磯部道生 (P20~22, 26~27, 45~47)、
加藤ゆい (P12~19)、川岸 徹 (P48~53)、
千葉 望 (P32~33)、千葉はるか (P58~62)、
顔智優子 (P34~44)、船木麻里 (P24~25, 28~31)、
森田聡子 (P54~56)

写真 / 赤松洋太 (P12~13, 24~26, 48の人物)、
伊 総吉 (P14~19のイメージ)、大高和康 (P32~33)、
高山 透 (P58~62)、古浦敏行 (P24~25の商品)、
むかさゆうすけ (P10~11, 26~27の料理、
P28~31のイメージ)、
矢橋英文 (P15~21, 28~35の人物, 45~53)、
吉野洋三 (P34~44の商品)

イラスト / 龍神貴之 (P20~22, 54~56)

衣装スタイリング / 今井ゆう (P34~44)

着物コーディネート / 中田純子 (P38~39, 40, 42)

雑貨スタイリング / 山田正理 (P10~11, 28~33)

料理 / 渡辺公子 (P29, 31)

ナー



2009
最新マナーを
お届けします!

ホテルオークラ東京

Hotel Okura Tokyo

1962年に開業した日本を代表するホテル。虎ノ門という便利な立地でありながら、閑静なたたずまいが魅力だ。撮影に使用したのは、本館9・10階に位置する「グランド コンフォート フロア」。ベールブルーやアイボリーを基調としたインテリアが広々とした空間を演出している。バスルームには、ホテルでは珍しい座ったまま浴びることができるシャワーも装備。フロア限定アメニティが安らぎの時間をさらに心地よくしてくれる。



DATA
東京都港区虎ノ門2-10-4 ☎03-3582-0111
(代表) チェックイン14時、アウト12時
大人2人で1室利用の1泊料金(室料、消費税込)6万6150円~
クレジットカードほぼすべて可
<http://www.hotelokura.co.jp/tokyo>

NG 持ち出し厳禁

部屋着

ボールペン

ティーカップ

灰皿

OK 持ち帰り可

アメニティセット

レターセット

スリッパ

ティーバッグ

ホテルによって違う

つ い持ち帰りたくなる客室の備品だが、ここにもマナーがある。ホスピタリティマネジメントのディレクター、山森好高さんによると、「客室の備品で持ち帰っていいものといけなものの基準は、消耗品であるかどうかです」。アメニティグッズやレターセットはOKだが、バスローブやバスタオルなどのリネン類、ティーカップ、栓抜きなどは当然NG。高額の備品の場合は後で請求書を送ってくることもある、というから注意が必要だ。スリッパはケースバイケース。ウオッシュャブルタイプはNGだが、使い捨てタイプなら持ち帰ってもよい。後者はビニールに入れて、「お持ち帰りください」と書かれているものもある。持ち帰る人が多いボールペンはホテルによって対応が違うので、持ち帰る際にはスタッフにひと声掛けたい。

意外に知らない!? 持ち帰っていいもの & いけないもの

Take It Free
or
Not Take Out

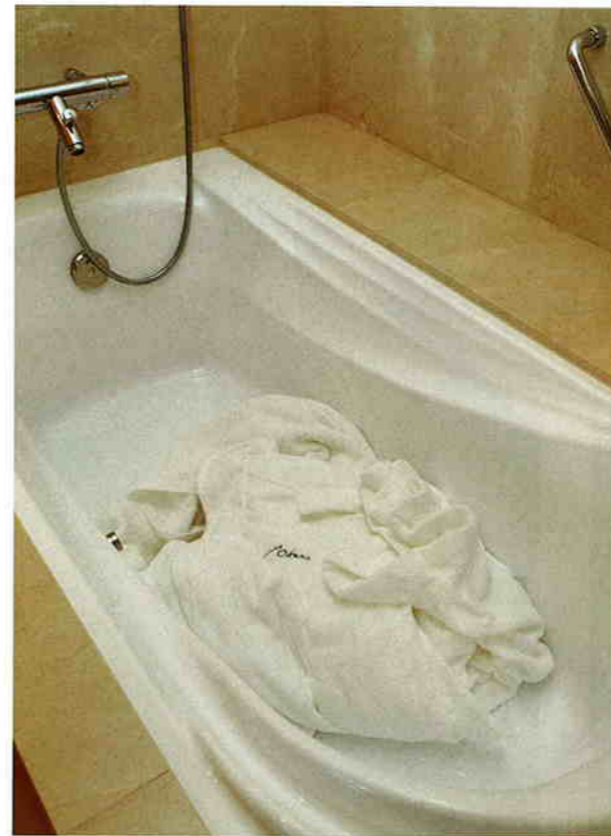
Lecturer



山森好高さん

Yoshitaka Yamamori
長年現場を経験したホテルマネジメントのエキスパート集団「ホスピタリティマネジメント」のディレクター。1984年、全日空エンタープライズ入社。東京全日空ホテル(現ANAインターコンチネンタルホテル東京)、全日空ホテルズ、米子全日空ホテルを経て、2006年から現職。得意分野は、宿泊業務全般、セールス&マーケティング、市場調査および分析。

山森さんによれば、旅慣れたゲストか否かは、客室の使い方だいたい分かるという。「リネン類をまとめてバススタブに入れたり、簡単なベッドメイキングをしたりするだけでも、慣れた方だと感じます」。同時に、ホテルへは積極的にリクエストをするべきだという。「ホテルが一番苦手とするのは、サイレントゲストです。日本人はホテルへのリクエストをクレームだと思っている方が多いようですが、サービスに対する対価を支払っているわけですから、遠慮なく言ったほうがいいのです」。タオル類の追加や、(同ランクでの)客室の変更などは、快く対応してくれる。さらに、リクエストすることでホテルはその内容を顧客情報として登録するケースが多いので、客の立場からしても、次のサービスにつながるというメリットがある。



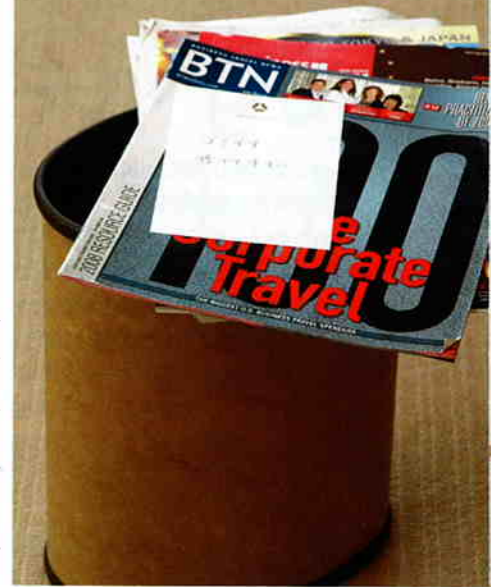
使ったバスタオルやバスローブは
まとめてバススタブの中へ。

使用済みのバスタオル、フェースタオル、バスローブなどは、すべてまとめて浴室のバススタブの中に入れておけばよい。ソファやベッドなどの布地の上に、濡れたタオルをそのまま放置するのは配慮のない行為。



ベッドのしわは気にせず、
枕や布団を元の位置に戻す。

ベッドは使ったままではなく、簡単に整えておく。といっても、枕や掛け布団を元の場所に戻し、使用した後に「直してくれたのだな」と分かる程度で十分。シーツやカバーのしわにまで気を使って伸ばす必要はない。



雑誌や書類を
破棄する際は
「捨ててください」のメモを。
特に雑誌類や書類などは、見ただけでは忘れ物と紛らわしい。ルームキーパーがはっきりゴミだと分かるような配慮が必要。ゴミ箱に入らないものについては、「ゴミです」「捨ててください」など一言メモを添えておく親切だ。

ホテル編

Grand Hotel

部屋を出るときの後始末で
慣れたゲストか否かが分かる

ルームサービスのワゴンには
ナプキンで覆い、
食べた跡を隠す。

食べ残しを一皿にまとめたり、皿を重ねたりする必要はないが、ワゴンが丸見えにならないよう、ナプキンで隠すのがスマート。「食べ残しました」などと連絡を入れる必要はなく、廊下に出しておけば片付けてくれる。

